



写真は(一財)消防防災科学センター「災害写真データベース」より

関東大震災から100年 医療機関の危機管理とは

⑦最終回

株式会社日本防災研究センター
人と防災未来センターリサーチフロア(医学博士)

古本尚樹

医療機関の少なからず「いだらう」「かかりつけは、地域社会・住民にと「医」に象徴されるよう、つて「よりどころ」とな 普段からの利用に欠かせ っていることが少なくない。その「かかりつけ

医」も新型コロナウイルス禍では、機能しなくなっていた。他の高機能医療機関も含

医療機関は地域社会の「よりどころ」

スタッフ、利用者の安全と地域住民への貢献を

め、キャパシティや人材の面で、需要と供給のアンバランスは、新型コロナウイルス感染者以外の、重篤者の生命をも危険にさらし、実際にこの影響で亡くなった人も多い。院内での災害時や緊急時での対応をどうするか。災害看護で「3つの

ターの下に潜る、しっかりと固定された動かないものにつかまる、しゃがんで頭部を保護するなど

期消火。引火性薬品などが近くにある場合には、安全な場所に移動。Survivor 生存者(患者)の安全

可能性のある患者については、その受傷経緯がわかるようにメモや記録を残す。初期対応が重要であること、院内の安全確保は最優先事項である。

入院中の患者の治療は継続できるか、という判断の中で、①人的な問題、②施設の問題、③医療資源の問題、④新規の患者の治療は可能か、⑤被災者の避難場所として機能するのか、⑥人的・施設の限界、医療資源の枯渇が起きたら、という事項の確認は重要だろう。特に④や⑤は地域住民への寄与の度合いが強い。また⑥に関してはトリアージにより優先的に患者の命を救う必要がある。同様に重要な事項だろう。災害時にはとりわけ院内の患者とスタッフのことが優先されるが、その延長線上に、これまでの地域への貢献における意識も忘れてはならない。

(参考文献) https://knowledge.nurses-enka.jp/5892/http://www.dr.p.ne.jp/pickup_article/ (おわり)

S」があるという。

Self 自分自身の安全 看護師自身が負傷

断。窓や天井、壁の破損がないかどうか、ライフライン、医療ガス(酸素、水漏れがないかどうか、また火災の有無を確認する。出火している場合には、すぐに大声で周囲に知らせたうえで消火器や消火栓を用いて初

リーダーなどの担当者に報告し、追って安否を確認。多数の負傷者がいた場合には、その重症度・緊急度によって、その場で急に応急手当が必要だが、そこでの処置は止血や気道確保など、最小限のこと。頭を打ったなどで意識レベルが低下する

療資源の問題、④新規の患者の治療は可能か、⑤被災者の避難場所として機能するのか、⑥人的・施設の限界、医療資源の枯渇が起きたら、という事項の確認は重要だろう。特に④や⑤は地域住民への寄与の度合いが強い。また⑥に関してはトリアージにより優先的に患者の命を救う必要がある。同様に重要な事項だろう。災害時にはとりわけ院内の患者とスタッフのことが優先されるが、その延長線上に、これまでの地域への貢献における意識も忘れてはならない。